第十二講『東坡全集』「范文正公集序」／文学史(2)

一　次の文章は、北宋の蘇軾(そしょく)が、范仲淹(はんちゅうえん)の文集『范文正公集』に寄せた序文の前半部分である。読んで問いに答えよ。なお、設問の都合上、文字を改め訓点を省いたところがある。

慶暦三年、軾始総角入郷校。士有自京師来者、以魯人石守道所作慶暦聖徳詩示郷先生。軾従旁竊観、則能誦習其詞、問先生以所頌十一人者何人也。先生曰、童子何用知之。軾曰、此天人也耶、則不敢知。(ア)若亦人耳、何為其不可。先生奇軾言、尽以告之、且曰、韓・范・富・欧陽、此四人者、人傑也。(1)時雖未尽了、則已私識之矣。嘉祐二年、始挙進士、至京師、則范公没。既葬而墓碑出。読之至流涕、曰、(イ)吾得其為人。蓋十有五年而不一見其面、(a)豈非命也歟。是歳登第、始見知于欧陽公。因公以識韓・富、皆以国士待軾、曰、恨子不識范文正公。其後三年、過許、始識公之仲子今丞相尭夫。又六年、始見

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

其叔彝叟京師。又十一年、遂与其季徳孺同僚于徐。皆一見如旧。且以公遺稿、(b)見属為序。又十三年、(2)乃克為之。嗚呼、公之功徳、蓋不待文而顕、其文亦不待序而伝。(ウ)然不敢辞者、自以八歳知敬愛公、今四十七年矣。彼三傑者、皆得従之遊、而公独不識、以為平生之恨。若獲掛名其文字中、以自托於門下士之末、豈非疇昔之願也哉。

（蘇軾「范文正公集序」による）

〔注〕
○慶暦――北宋仁宗朝の年号。慶暦三年は一〇四三年。　○総角――幼少期の髪の結い方。転じて幼年のこと。
○京師――都のこと。　○魯――山東省の別称。　○石守道――北宋の学者、石介のこと。
○韓・范・富・欧陽――韓琦、范仲淹、富弼、欧陽脩。いずれも北宋中期の名臣。
○嘉祐――北宋仁宗朝の年号。嘉祐二年は一〇五七年。
○挙進士――官吏登用試験「科挙」に合格すること。　○范文正公――范仲淹のこと。
○許――許州。現中国河南省の都市。　○仲子――次男。　○尭夫（ぎょうふ）――范仲淹の息子、范純仁。
○叔――上から三番目の兄弟。　○彝叟（いそう）――范仲淹の息子、范純礼。　○季――末の弟。
○徳孺（とくじゅ）――范仲淹の息子、范純粋。　○徐――徐州。現中国江蘇省の都市。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

○掛名――名前を出すこと。

○疇昔（ちゅうせき）――以前。昔。

問一　傍線の箇所（１）「時雖未尽了」、（２）「乃克為之」を、すべて平仮名で書き下せ。現代仮名遣いでよい。

（１）

（２）

問二　傍線の箇所（ａ）「豈非命也歟」、（ｂ）「見属為序」を口語訳せよ。

（ａ）

（ｂ）

問三　傍線の箇所（ア）「若亦人耳、何為其不可」を口語訳せよ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問四　傍線の箇所（イ）「吾得其為人」とあるが、これは蘇軾の范仲淹に対する認識がどのように深まったことを示すか。そのきっかけとなった出来事に触れつつ、五十字以内で記せ。

問五　傍線の箇所（ウ）「然不敢辞者」とあるが、その理由について、三十五字以内で記せ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〈講義動画中に使用します〉

「散文」

古文…秦・漢以前の、内容重視の文章。『孟子』、『荀子』など。

↓

四六駢儷文（しろくべんれいぶん）…六朝時代から唐にかけての、修辞的技巧を重視する文章。四字・六字の対を基調とした技巧的な散文。

↓

古文復興…唐の中期以降に駢儷文に対する批判がおこり、外形的な修辞よりも、内容重視する「古文」を模範にすべきという主張。**「古文復興運動」**という。

【唐宋八大家】…古文復興運動の流れを受けて、名文を生んだ代表的な八人

韓愈（かんゆ）**・柳宗元**（りゅうそうげん）**・欧陽脩**（おうようしゅう）**・蘇洵**（そじゅん）**・蘇軾**（そしょく）**・蘇轍**（そてつ）**・王安石**（おうあんせき）**・曾鞏**（そうきょう）

【韓愈・柳宗元】

・中唐の文章家・詩人

・「韓柳」と並称される

【蘇洵・蘇軾・蘇轍】（父・長男・次男）

・「三蘇」という。

『唐宋八大家文読本』（沈徳潜（しんとくせん））…唐宋八大家の作品を集めて編集。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第十二講

①「為人」はどのような意味か。次の中から最も適切なものを一つ選べ。

ア　性格として　　イ　他人のために　　ウ　大人になって　　エ　わざと

②「何為以テレ公ヲ名ヅケシト。」の傍線部の意味（訳）を記せ。

③「猶未二尽除カレ一。」を書き下し文にせよ（送り仮名を省いたところがある）。

④蘇洵は優れた文章の書き手である「唐宋八大家」の一人とされている。次の人物のうち、「唐宋八大家」に**含まれない**のは誰か、次の中から一つ選べ。

ア　韓愈（かんゆ）　　イ　柳宗元（りゅうそうげん）　　ウ　欧陽脩（おうようしゅう）　　エ　蘇軾（そしょく）

オ　蘇轍（そてつ）　　カ　司馬光（しばこう）　　キ　王安石（おうあんせき）　　ク　曾鞏（そうきょう）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

【第十二講】

〔模範解答〕

一

問一　(1)ときにいまだことごとくはりょうせずといえども
(2)すなわちよくこれをなす〔つくる〕

問二　(a)なんと運命ではないか。
(b)序文を書くことを依頼された。

問三　もし彼らも人であるならば、どうして私が知ることが不都合だろうか、いや、不都合はない。

問四　幼少期に、先生から范仲淹の偉大さを聞き、後に墓碑を読んでその人柄をさらに深く理解できた。（四十四字）

問五　序文に自分の名前を出せば、范仲淹の弟子になるという願いが叶うから。（三十三字）

〔現代語訳〕

一

慶暦三年、私〔＝蘇軾〕は幼年の頃、初めて地方の学校に入学した。都から来た男性がいて、山東省の石守道〔＝石介〕が作った『慶暦聖徳』の詩を学校の先生に見せていた。私は側で（その詩を）こっそり見て、その詩を繰り返し読み暗唱することができ、先生に「（この詩で）ほめたたえられている十一人の人は、どんな人ですか」と質問した。先生が言うには、「子どもなのにどうして彼らを知りたがるのか」と。私が言うには、「彼らが天上界の人ならば、決して知ろうとは思いません。もし彼らも人であるならば、どうして私が知ることが不都合だろうか、いや、不都合はない」と。先生は私の発言を優れているとして、十一人全員の名前を（私に）告げ、さらに言うには、「韓琦・范仲淹・富弼・欧陽脩、この四人は、特に

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

優れた人物である」と。その時まだ（十一人）すべてを理解しえたわけではなかったが、個人的に心にしっかりとこの四人を刻んだのである。嘉祐二年、初めて科挙に合格して、都に行くと、范公〔＝范仲淹〕は亡くなっていた。すでに埋葬されていて墓碑ができあがっていた。（私は）墓碑を読み、涙を流して、言うには、「私は范公の人柄が分かった。思うに十五年の間に一度も范公と会うことがなかった、なんと（悲しい）運命ではないか」と。この年、試験に合格し、初めて欧陽公〔＝欧陽脩〕の知遇を得た。欧陽公の紹介で韓琦・富弼と面会すると、彼らは一国の中で最も優れた人物として私を応対し、言うことには、「あなたが范文正公〔＝范仲淹〕に会えなかったことが残念だ」と。それから三年後、許州に立ち寄った時、初めて范仲淹の次男で宰相の范純仁と知り合った。また六年して、初めて范仲淹の三男の范純礼と都で会った。また十一年して、とうとう范仲淹の末子の范純粋と徐州で同僚になった。彼らとは出会ってすぐに旧知の仲のようになった。さらに范公の遺稿について、序文を書くことを依頼された。また十三年して、ようやく序文を作成することができた。ああ、范公の功績と徳行は、思うに文字にあらわさなくとも顕彰され、范公の文章もまた序文がなくとも（世の中に）伝わるであろう。しかし（序文を作ることを）決して辞退しなかったのは、八歳で范公を敬愛しはじめてから、今に至るまで四十七年。（八歳の頃に聞いた四人のうち）あの三人の優れた人物とは、交遊することができたが、范公にだけ会うことができず、常々残念であった。もし范公の文集の序文に自分の名前を出して、自分を（范公の）門下の末席に置くことができたならば、なんと長年の願いが叶うことになるではないか。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題解答解説　第十二講

〔解説〕

①「為人」は、「ひとトなリ」と読み、「人柄」の意味。重要単語で、読みも意味も両方大事。アの「性格（＝人柄）」が正解。

②「何為」の「為」に返り点が付いていなければ、「なんすレゾ」と読み、「どうして」という意味（訳）で疑問か反語。ちなみに、「何為者」なら「なんすルものゾ」と読み、「何者か」の意味。

③「猶」に返り点が付いていないため、ここでは再読文字ではなく、副詞で「なホ」と読む。「未」が再読文字で「未（いま）だ～ず」。「未尽」は部分否定であるから、「尽」の読みは「尽（ことごと）く**は**」である。すべて繋げると解答のとおり。

④司馬光は『資治通鑑』の作者であるが、唐宋八大家ではない。この問題のように、「唐宋八大家」ではない人物を選択肢から選ばせる問題がよく出題されるので、文学史が必要な人は八人きちんと押さえておくこと。

〔解答〕

①　ア　②　どうして　③　猶ほ未だ尽くは除かれず。　④　カ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。